

C-31 ミシン縫いに関する研究(3) 水浸漬による縫目じわの変化について  
椋山女学園大 家政 〇富田明美 安田盈子 名倉光雄

### 目的

オ1・2報において布、縫糸の種類と縫糸調子が洗たく後の縫縮み及び縫目じわに及ぼす影響を調べたが、縫目じわの状態が一定でなく、縫目じわの外観による順位づけは困難であつた。そこで、しわの種類を区別して、水浸漬による縫目じわの変化に対する布と縫糸の種類及び縫糸調子の影響を検討した。

### 方法

試料は、市販の婦人服裏地5種を用い、縫糸は綿ミシン糸、絹ミシン糸、テトロン糸を使用した。家庭用電動ミシンを使用し、タテ方向の布を2枚重ねてタテ方向に縫つた。下糸調子は45%、30%、18%の3段階に変化させ、その他の条件は一定にした。縫製後及び浸漬後における縫縮み率、縫糸短縮率を測り、縫目じわの状態を写真撮影した。

### 結果

縫目附近のしわには2つの状態がある。一つは縫道両側の布の細かい小波であり、一つは縫道両側の布の大波である。縫糸短縮率や縫縮み率が大きい場合には大波になり、ヨコ糸密度が大きく、曲げ剛さが小で、織糸自身の伸びが小さい場合には小波になると考えられる。浸漬後の縫目じわは親水性の布及び縫糸の場合は大波が減少し、小波は変化しない。非親水性の布及び縫糸の場合は大波も小波も変化しないことがわかつた。